

がんばる
皆さんを応援!

大日小屋

「大日小屋」は北アルプス立山連山の西、標高2,501mの大日岳の麓にある山小屋です。天気が良ければ真正面に剱岳を臨むことが出来る素晴らしい眺めが広がり、風情あふれるランプの小屋としても知られ、夏の

3カ月の営業期間には多くの登山客を受け入れています。ランプが灯る食堂では、ギターのアコースティックライブが開かれることも。ギター職人の顔も持つ、代表の杉田健司さんに代々営んできた山小屋のこれからの取り組みについて伺いました。

🌀 ギター職人と二足の草鞋

山小屋は登山客の宿泊や休憩の場として、安全で快適な登山を支えています。大日小屋は昭和23(1948)年に開業し、杉田さんの祖母の三江子さんや母親の光子さんが中心となって営んできました。

「私は幼い頃からものづくりが好きで高校生のときにギター製作に興味を持ち、卒業と同時に東京のギター工



▲大日小屋の外観

房で6年修業を積みました。しかし、家族は不安定な職業に就いたと思ったようで、生活していくためにと家業を託されました」

富山市に戻り、平成2(1990)年に「SUGICRAFT」の屋号でアコースティックギターを専門に製作活動を開始。並行して、小屋の営業期間である7〜10月は山に入る生活を送っています。

「迷った時期もありましたが、私にとっては大自然の中に身を置くことが心身にとって大きなプラスとなり、それがギター製作へのエネルギーになっていると思います」

🌀 何年もかけて自力工事で水を確保

食堂から歩くこと約5時間。奥大日岳、中大日岳を越えた、大日岳の麓に大日小屋は位置します。登山好きのエリアとされ、真正面に剱岳を臨む雄大な眺め、温かなランプが灯る山小屋の雰囲気を感じて再訪する登山客も多いそう。夕食後のアコースティックライブは大日小屋ならではの楽しみです。

「私が製作したギターを壁にかけていたところ、お客様から声がかかり何となく始まり、ほぼ毎晩演奏するようになり



▲温かなランプが灯る食堂

ました」

稜線上の小屋では特に水を確保するのに苦労してききました。

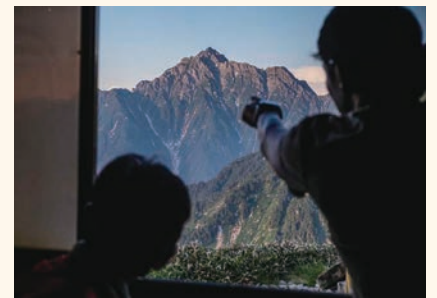
「雨水頼みでは不安定なため、沢からポンプアップで水を引いています。標高差200メートル、1キロ離れた場所から水を得るのは容易ではなく、実現までに5年かかりました」

🌀 コロナ禍で営業できない年も

他人と同じ部屋で寝泊りすることもある当小屋にとって、新型コロナウイルスは大きな打撃でした。十分な感染予防対策が取れず、令和2(2020)年は営業を断念。富山商工会議所の支援を受けて採択された、国の「令和2年度補正予算小規模事業者持続化補助金(コロナ特別対応型)」を活用して、コロナ対応の就寝スペースの改良とオンライン予約システムの導入を進めました。

「宿泊者一人ひとりの就寝スペースを拡張し、飛沫防止用のカーテンで仕切って、個室のような使い方ができるよう改装しました」

オンライン事前決済で接触機会が減りました。また、それまで現金決済であったため、(山小屋では珍しくない)当日キャンセルによる損失が少なくあ



▲大日小屋からの景色/中央に見えるのは剱岳

りませんでした。これを防ぐ(宿泊料の一部を回収できる)仕組みを構築しました。

「会計業務全体の省力化にもつながりました。悪天候などで電話が通じにくいときなども、お客様自身で予約や変更の手続きをしていただけようになりました」

🌀 安心して滞在できる山小屋に

山小屋は緊急時には避難場所や救助活動等の拠点となるなど、登山客の健康と命を守る、山には欠かせない施設です。一方で冬は氷雪に埋もれるため、常に倒壊のリスクも念頭にあるそうです。

「改装で定員は減少しましたが、従来の詰め込み型の山小屋から、安心してゆったり過ごせる山小屋へ転換を図る機会と考えています。大部屋での初対面の人との寝泊まりに抵抗を感じがちな若年層をはじめ、女性、ファミリー層など新規顧客開拓につながることを期待しています」

さまざまな工夫とアイデアで時代に合った山小屋を目指す「大日小屋」を当所はこれからも応援していきます!

剱岳の展望台 大日小屋

○事業内容 山小屋経営

住所
中新川郡立山町ブナ坂外
11国有林137イ林小班
(称名滝登山口、食堂ターミナルそれぞれから登山道を歩いて約5時間)

営業期間 7月10日~10月初旬

☎ 090-3291-1579

✉ info@dainichi
goya.jp

